

第1学年国語科学習指導案

指導者：佐伯 里緒菜

単元（題材）名：竹取物語—蓬萊の玉の枝

日時 令和2年11月18日（水）6校時 15:00～15:50
学年 第1学年2組（男子21名 女子19名 計40名）
場所 1年2組教室（本館4階）

単元観

本単元（題材）は、中学校学習指導要領第1学年「C読むこと」の指導事項（1）オ「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。」及び「我が国の言語文化に関する事項」の指導事項（3）ア「音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。」の能力の育成をねらいとして設定した。

本教材では、「かぐや姫」の物語として絵本や漫画などで広く知られている作品であり、古典の導入教材として生徒は親しみをもつことができる。さらに物語の冒頭場面と、貴公子の一人の失敗談やかぐや姫昇天後の帝の行動を描いた最後の場面が載せられているため、かぐや姫の話として断片的に知っていた生徒も、本格的に古典教材に親しむことのできる作品である。

また、千年前にできた、現存する日本最古の物語であるこの作品が、今も読み継がれていること、「月の都」という異世界への当時の人々の憧れや人間の欲望や当時の貴族社会への思い等も考えることで、現代との共通点や相違点を見出し、自分自身の考えも広げ、深めることのできる教材である。

生徒観

令和2年度4月に実施した標準学力調査の国語「読む能力」の正答率は次のとおりであった。

設問項目	校内平均正答率	全国平均正答率
登場人物の心情をとらえることができる。	78.9	76.0
文章の表現の特徴をとらえることができる。	49.1	50.0
登場人物の心情の変化をとらえることができる。	54.4	55.0

上の表からわかるように、「文学作品の内容を読み取る」ことの中の「登場人物の心情をとらえることができる」に関する設問の校内正答率は78.9%であり、全国平均を上回る正答率であったのに対して、「登場人物の心情の変化をとらえることができる」に関する設問の校内正答率は54.4%と全国平均を下回っている。このことから本校1年生には表現に即して読み取ったことを抽象化したり、自分の言葉で言い換えたりすることに課題があるといえる。

また、小学校段階で古典の学習はしており、「竹取物語」の冒頭部分については知っている生徒も多数いたが、難しさから興味は無い段階である。

指導観

指導にあたっては、「かぐや姫」の人物像を捉えることで、ものの見方・考え方を広げさせたい。表現に即して登場人物の心情や情景を捉えることにとどまらず、読み取ったことをもとに、自分の考えを持ち、自分の言葉で表現させる活動を取り入れることで、登場人物の心情の変化を捉えさせたい。また、単元を通して何度も音読をさせることで、古文のリズムに親しませたい。

単元の目標と評価規準

単元（題材）の目標

- (1) 場面の展開や登場人物の描写に注意して読もうとしている。【関心・意欲・態度】
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。
【C読むこと オ考えの形成・共有】
- (3) 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。

【我が国の言語文化に関する事項 ア伝統的な言語文化】

指導と評価の計画

単元（題材）の評価規準（「B」「おおむね満足できる」と判断される状況）

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①場面の展開や登場人物などの描写に注意して読んでいる。	①場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解している。 ②場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、登場人物の気持ちを代弁できる。	①音読に必要な文語のきまりを理解している。

次	時	学習内容（時数）	評 価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
一	1	○絵本「かぐや姫」の読み聞かせを聞く。 ○「竹取物語」のあらすじをつかむ。 ○物語の冒頭部分を読み、古文のリズムに親しむ。 ・冒頭部分を繰り返し音読する。	○			・冒頭部分を声に出して読んでいる。	行動観察
	2	○重要語句を国語辞典で調べる。 ○冒頭部分の内容をとらえる。 ・繰り返し音読する。 ・歴史的仮名遣いの特徴を知る。 ・冒頭部分を暗唱する。 ・成立時代や作者等、「竹取物語」の特徴をつかむ。		◎	○	・国語辞典を使って重要語句の意味を捉えている。 ・歴史的仮名遣いの決まりを捉え、流ちょうに読んでいる。 ・「竹取物語」の基本的な事項について理解している。	行動観察 ワークシート
二							
三	3	○新出漢字を漢和辞典で調べる。 ○「くらもちの皇子」の失敗談を読み、話の展開を捉え「くらもちの皇子」の人柄を考える。 ・繰り返し音読する。 ・古語の意味をつかみ、蓬莱山の様子をイメージする。 ・なぜ求婚が失敗したのか読み取ることで、蓬莱山以降での出来事を捉える。 ・「くらもちの皇子」の役職や行動		◎	○	・漢和辞典を使って新出漢字の読みや部首を捉えている。 ・歴史的仮名遣いに注意して音読できている。 ・「くらもちの皇子」の話す蓬莱団での出来事の内容をとらえている。 ・「くらもちの皇子」が話したことが全て作り話であることを理解し	行動観察 ワークシート

		から、人物像を捉える。				ている。 ・「くらもちの皇子」の人柄を「権力」「嘘」という言葉を使ってあらわしている。	ワークシート
	4	○重要語句を国語辞典で調べる。 ○5人の貴公子の失敗談を把握する。 ・「くらもちの皇子」以外の4人の貴公子にまつわる話を読む。 ・なぜ5人の貴公子が失敗したのか考え、それぞれの人物像を捉える。 ・「かぐや姫」は、自分の出した条件が無理難題であることに気がついていなかったのか考えることで、「かぐや姫」の心情も想像する。		◎	○	・国語辞典を使って重要語句の意味を捉えている。 ・5人の貴公子の求婚や策略が失敗に終わった原因をとらえている。 ・「被害者」が5人も出ているという観点で考えることで、「かぐや姫」の思いを読み取ることができている。	行動観察 発表
四	5	○新出漢字を漢和辞典で調べる。 ○「昇天」の場面をまとめ、それぞれの登場人物の心情を捉える。 ・本文を繰り返し音読する。 ・古語の意味をつかむ。 ・「かぐや姫」と翁たち、帝との別れの場面の読み取りを通して、それぞれの登場人物の行動を基にそれに表れた思いを読み取る。		◎	○	・漢和辞典を使って新出漢字の読みや部首を捉えている。 ・歴史的仮名遣いに注意して正しく読むことができている。 ・「かぐや姫」の昇天の場面から、帝や翁たちに対する思いを読み取ることができている。	行動観察 ワークシート
	6	○重要語句を国語辞典で調べる。 ○「竹取物語」に表れた作者の思いを読み取る。 ・登場人物と、現代の人々との考え方を比較する。 ・作者不明であることの意味を考えることで作者の、当時の貴族社会に対する思いを理解する。		◎	○	・国語辞典を使って重要語句の意味を捉えている。 ・5人の貴公子を通して、作者が当時の貴族社会を批判していたかもしれないことに気づくことができる。	行動観察 ワークシート

五	7 本時	○新出漢字を漢和辞典で調べる。 ○かぐや姫の人物像を捉える。 ・かぐや姫が善人か悪人か検討することで、かぐや姫の思いを読み取る。 ・自分の立場とその理由を明確にし、自分の言葉で表現する。 ・班で交流することで、自分の意見を確かなものにするとともに、両方の立場の意見を知り、考え方を広げ深める。	◎	○	・漢和辞典を使って新出漢字の読みや部首を捉えている。 ・これまでの学習内容を踏まえ、翁や貴公子、帝に対する「かぐや姫」の言動から、「かぐや姫」が善人であるか悪人であるか検討することができる。 ・班や全体で意見交流することで、自分の意見を再度検討することができる。	行動観察 ワークシート ワークシート

本時の学習

(1) 本時の目標

- 「かぐや姫」が善人か悪女か検討することで、当時の人々に思いをはせることができる。

(2) 観点別評価規準

- ・漢和辞典を使って新出漢字の読みや部首を捉えることができる。
(言語についての知識・理解・技能)
- ・これまでの学習を踏まえ、「かぐや姫」が善人か悪女か検討することで思いをはせている。
(読む能力)

(3) 準備物

ワークシート、漢和辞典

(4) 学習の流れ（7時間目／全7時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
------	---	----------------

本時のルーティーン学習をする（10分）

<p>1 ルーティーン学習の一環として重要語句調べをする。</p> <p>・本文中の新出漢字を漢和辞典で調べる。</p>	<p>◇漢和辞典は一人一冊準備しておく。</p> <p>◇設定された時間内に全ての新出漢字を漢和辞典で調べさせ、調べ終わった生徒から、黒板に書かせる。</p> <p>◆漢和辞典の引き方を再度確認させる。</p>	<p>正しく国語辞典を使用することができる。（行動観察）</p>
--	---	----------------------------------

既習事項の確認をする（10分）

<p>2 前時までの復習をする。</p> <p>・「竹取物語」の基本事項について問い、全体で答えさせる。</p> <p>・「竹取物語」の冒頭部分を暗唱する。</p> <p>・「かぐや姫」の、翁や帝、貴公子たちに対する言動を想起する。</p>	<p>◇スライドで示す。</p> <p>◆暗唱が難しい場合には、教科書やワークシートを見るよう促す。</p> <p>◇「善」と「悪」の判断の材料を示す。</p>	
--	--	--

<p>3 本時の学習目標を確認する。</p> <p style="text-align: center;">< 3分 ></p>	<p>◇単元のねらいを基に説明する。</p>	
--	------------------------	--

学習目標 これまでの学習を踏まえ、「かぐや姫」が善人か悪女か検討することで、当時の人々に思いをはせることができる。

本時の課題に取り組む（22分）

<p>4 「かぐや姫」が善人か悪女か検討し、根拠を含め自分の意見を書く。（個人思考）</p> <p>・全体に投げかけ、いくつかの意見を取り上げる。</p>	<p>◇これまでの学習内容を踏まえて書くよう（飛躍しすぎないように）促す。</p>	<p>自分の言葉で書くことができる。（ワークシート）</p>
---	---	--------------------------------

[予想される生徒の反応]

* 「善人」

○帝や翁たちが悲しまないように、天の羽衣や不死の薬、手紙を残していったから。

○貴公子たちが求婚を諦めてくれるよう、わざと達成困難な課題を出したから。

○帝の求婚を無下にしては翁たちに迷惑がかかると思っていたから。

* 「悪女」

○貴公子たちが危険な目に遭うことは予想できたはずだから。

<p>5 自分の意見を基に、班で交流する。 <10分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっともしっかりくるものを一つ選び、班の意見を決定する。 	<p>◆どちらかに決めるのが難しい場合は、双方にしても良いことを伝える。</p>	
<p>6 現代との共通点や相違点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代にいたらどうか」ということを考えることで、当時の人々に思いをはせる。 ・グループや全体で共有したあとに再度自分の意見を考える。 		
<p>「A評価」</p> <p>かぐや姫は 善人・悪女 である。</p> <p>理由は二つある。</p> <p>ひとつめは、かぐや姫の貴公子への対応にある。この世に存在もしないものを取ってこいと無理難題を押しつけるが、実はそれはかぐや姫の優しさなのではないだろうか。いずれ月に帰らなくてはならないかぐや姫は無責任に求婚を受け入れることはせず、諦めさせることにしたのであろう。</p> <p>二つめは、帝への対応にある。貴公子たちへの対応と、帝への対応が同じでは、育ててくれた翁や媼に対して、恩を仇で返すことになりかねないので、帝の求婚も無下にはできなかつたのだと考える。</p> <p>このように、先のことも考えて行動したかぐや姫は、善人である。現代の私たちの考えにも通ずるところがあり共感ができるのだ。</p>		
<p>本時のまとめをする（5分）</p>		
<p>7 発表とまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表する。 ・古典は切り離せるものではなく、現代と通ずるものもあることに気づく。 ・振り返りをする。 	<p>◇班での意見交流を踏まえて数人発表させる。</p> <p>◇まとめを行う。</p>	